

松 伯母ケ酒 烏帽子折

奥川恒治 善竹十郎 観世鏡之丞 観世喜正

Noh Kyogen  
KANZE KYUKOHKAI BEKKAI  
30 April 2022(sat)  
National Noh Theatre  
13:00 start (12:30 open)

令和四年  
四月三十日(土)  
開演午後一時／開場午後十二時十五分  
国立能楽堂 (千駄ヶ谷)



観世九臈会別会

かんぜきゅうこうかいべっかい

観世九臈会別会



観世鏡之丞



観世喜正



奥川恒治



善竹十郎

令和4年4月30日(土) 開演午後1時／開場午後12時15分

全席指定・税込  
S正面席 10,000円／A正面席 8,000円  
B脇正面席 6,000円  
C中正面席・GB席 5,000円  
C学生券 3,500円(要学生証・26歳未満)  
B席・C席親子ペアチケット  
(15歳以下1名無料・矢来能楽堂でのみ取り扱い)  
未就学児入場不可

発売日: 1月19日(水)10:00より

お申し込み:

カンフェティ オンラインチケット

<https://www.confetti-web.com/>  
(WEB予約後セブンイレブンで発券できます。)



0120-240-540(平日10:00-18:00)

矢来能楽堂HPのお申込フォームからもご予約いただけます。

<http://yarai-nohgakudo.com/>

お問い合わせ:

矢来能楽堂・観世九臈会

TEL03-3268-7311 FAX03-5261-2980

yarai@eos.ocn.ne.jp

主催: 公益社団法人観世九臈会

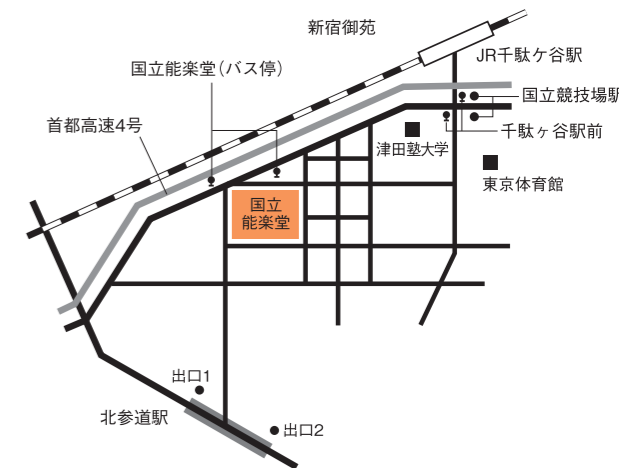
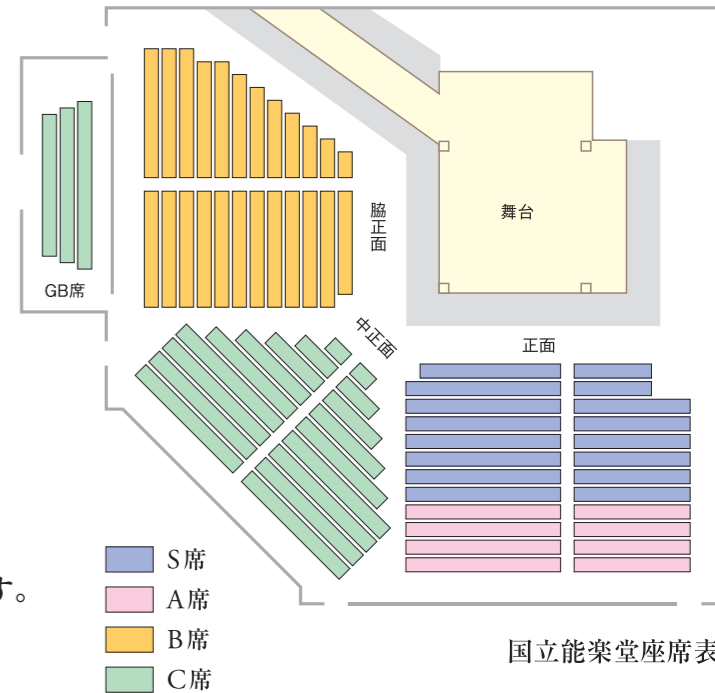
◆感染予防にご協力をお願いいたします。◆

- ・当日でも体調不良の際はご来場をお控えください。
- ・場内では上演中も含め必ずマスクをご着用ください。
- ・入口にて手指消毒と検温にご協力ください。
- ・37.5℃以上の発熱がある方は入場をお断りさせていただく場合がございます。

新型コロナウイルスの感染状況や行政機関などによる指示、各種ガイドラインの変更・更新に伴い、内容に変更がでる場合がございます。最新情報は矢来能楽堂ホームページや公式ツイッターなどでも随時お知らせいたしますので、ご来館時などには必ずご確認くださいませよう願いたします。

【注意事項】

- ・記載の演目・演者等はやむを得ない都合により変更になる場合がございます。
- ・許可のない録音・撮影は一切禁止です。
- ・携帯電話は電源からお切りください。
- ・演能やほかのお客様の迷惑となる行為はご遠慮願います。場合によっては退場していただく場合がございます。



JR(中央・総武線)千駄ヶ谷駅(エレベーター・エスカレーターあり)下車・徒歩5分  
都営地下鉄(大江戸線)国立競技場駅下車 A4出口(エスカレーターあり)徒歩5分  
東京メトロ(副都心線)北参道駅下車 出口1(エレベーター・エスカレーターあり)または2(エスカレーターあり)徒歩7分  
都バス早81(渋谷-早大正門)/黒77(目黒-千駄ヶ谷駅前)千駄ヶ谷駅前下車・徒歩5分  
ハチバス神宮の杜ルート国立能楽堂下車すぐ

国立能楽堂

〒151-0051東京都渋谷区千駄ヶ谷4-18-1  
TEL.03-3423-1331(代) <https://www.ntj.jac.go.jp/nou.html>

## 連吟 蟬丸

深津 紘  
平野 真樹  
柴田 孝宏  
坂井 隆夫  
久保田 宏二

光岡 良典  
観世 喜正  
永島 忠修  
永島 充

## 能 松風

ツレ 奥川 恒成  
シテ 奥川 恒治

見留

ワキ 福王 和幸

間 善竹大二郎

後見 鈴木 啓吾  
弘田 裕一

大鼓 亀井 広忠  
小鼓 鶴澤洋太郎

笛 松田 弘之

金子仁智翔  
中森健之介  
桑田 貴志  
坂 真太郎

長山 耕三  
遠藤 喜久  
観世 喜正  
小島 英明

休憩十五分

## 狂言 伯母ケ酒

シテ 善竹 十郎

アド 野島 伸仁

後見 善竹大二郎

仕舞 藤 戸  
観世 喜之

地謡 佐久間 二郎  
遠藤 和久  
弘田 裕一  
鈴木 啓吾

休憩十分

(午後三時五十分頃)

## 能 烏帽子折

子方 観世 和歌  
前ツレ 観世 淳夫  
前シテ 観世 鍊之丞  
後シテ 観世 喜正

ワキ 森 常好  
ワキツレ 館田 善博

大鼓 柿原 弘和  
小鼓 観世 新九郎

太鼓 観世 結子  
笛 一噌 隆之

若者 長山 耕三  
立衆 坂 真太郎  
立衆 奥川 恒成  
立衆 河井 美紀  
立衆 新井麻衣子  
立衆 金子仁智翔  
立衆 石井 寛人  
立衆 中森健之介  
立衆 桑田 貴志  
立衆 小島 英明

間 善竹大二郎  
間 善竹 十郎  
間 大藏 教義  
間 大藏 基誠  
間 大藏 吉次郎

後見 観世 喜之  
遠藤 喜久  
奥川 恒治

地謡 久保田 宏二  
永島 充  
鈴木 啓吾

遠藤 和久  
中森 貫太  
駒瀬 直也  
中所 宜夫

## 附祝言

(終演予定午後五時二十分)

あらすじ

法政大学能楽研究所兼任所員 中司由紀子

## 能 松風

旅僧(ワキ)が摂津国須磨の浦(神戸市須磨区)を訪れ、由ありげな松を見つけました。僧が浦の男(アイ)に尋ねると、昔、在原行平が愛した松風と村雨という、海士の姉妹の墓標の松であると男が教えます。姉妹を弔ううちに秋の日が早くも暮れていき、僧は塩屋で一夜を明かすことにします。

海士たち(シテ・ツレ)が汐を汲み桶に映る月影に興しながら、桶を車に乗せて塩屋へ帰っていきます。塩屋に通された僧が行平の話をする、海士たちは涙を流し、自分たちは松風村雨の亡霊であると明かし、行平との恋の思い出を語ります。松風の霊は行平の形見の衣を身にまとうと恋慕を募らせ、松の立ち木を行平の姿と見なして舞を舞います。行平の歌「立ち別れ、因幡の山の峯に生ふる、松とし聞かば今帰り来む」を口にした松風の霊は、さらに舞を見せると、供養を願い消え失せたのでした。

本日は、小書(特別演出)「見留」での上演です。二度目の舞の終わりに松を印象付ける演出があります。

## 狂言 伯母ケ酒

男が酒屋を営む伯母を訪ねます。男はあれこれと言つて酒をねだりますが、きつぱりと断られました。帰りかけた男は店に戻り、夕方になると恐ろしい鬼が出るので用心するようにと伯母に声を掛け、立ち去りますが……。

「武悪」という鬼の面が印象的に使われる作品です。

## 能 烏帽子折

平清盛に破れ討たれた源義朝の子、牛若丸(子方)(のちの源義経)は鞍馬寺を出走、東国へ下る商人三條吉次信高(ワキ)とその弟吉六(ワキツレ)の一行に加わります。鏡の宿(滋賀県竜王町)へ到着しますが、都の急使(アイ)が牛若追討を触れ回ります。そこで牛若は元服し大人の姿となつて逃れようとしています。牛若が烏帽子屋の亭主(前シテ)に源氏の象徴、左折れの烏帽子を所望すると、心を寄せた亭主は左折れの烏帽子のめてたい謂れを語り、牛若に烏帽子を付けます。代金替りの刀を亭主が妻(前ツレ)に見せたことで、妻が義朝の旧臣の妹であり、刀は牛若誕生に義朝が守り刀に送った物と判明。亭主は刀を返し、主従は再会を果たしました。夫婦は牛若の境遇に心を痛めるも、牛若は吉次の一行と旅立って行きました。

赤坂の宿(岐阜県大垣市)で宿泊の二行。宿の主人(アイ)が盗賊襲撃の情報を吉次に伝え、それを聞いた牛若は戦いに備えます。夜の暗闇の中、盗賊の偵察たち(アイ)が登場。牛若の返り討ちにあった偵察は退散。やがて熊坂長範(後シテ)を首領とする盗賊(立衆)が攻め寄せます。激しい戦いとなり、牛若は盗賊たちを次々と斬り伏せていきます。ついに熊坂との一騎打ち。二人はしのぎを削つて戦い、ついに熊坂は討ち取られたのでした。

平家打倒を果たす義経の武勇の出发点が(烏帽子折)です。公演では九世観世鍊之丞師をお招きし、観世和歌演じる牛若の烏帽子親となる、烏帽子屋の亭主役にご出演いただきます。